
異邦人

あと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異邦人

【Nコード】

N91190

【作者名】

あると

【あらすじ】

転勤してから1年。

居心地の良い電車で、ちょっとした災難にあった。

新しい任地に来て、一年が過ぎようとしていた。

入社時間が遅いこともあり、満員電車に乗らないですむのが何よりだ。故郷ではぎゅうぎゅう詰め運ばれていく日常だった。それが嫌で転勤を希望したのが一年と少し前になる。

車内の空調は毛並みを優しく撫で、非常に心地良かった。不意に左肩が重くなった。

隣の席に座っていたサラリーマンが居眠りを始めていた。太り気味の中年だ。

「大丈夫ですか」

右隣の女性が心配そうに声をかけてきた。

大丈夫です。もうすぐ降りますし。

礼を述べた直後、後頭部にサラリーマンの頭が落ちてきた。

よほど疲れているのだろうか。起きる気配もない。

身体全体で押し上げて、真っ直ぐにしてやった。こっぴつとき、体が小さいと不便だ。

ふう。

溜め息をついた途端、頭に嫌なものが落ちてきた。ヨダレだった。

「ちょっと、おじさん」

女性が頭越しにサラリーマンを小突いた。

「あ、すみません」

口元を拭ったサラリーマンがあわててハンカチを取り出した。

「気をつけてください」

自分のことのように言う女性が好ましかった。同族だったら惚れて

しまつかもしれない。
車内アナウンスが駅への到着を告げる。

よいしょっと。

年寄り臭いかけ声で、座席から下りた。いつも携帯している粘着式のローラーで、椅子に付いた毛を掃除した。

ありがとう。

女性に深々と頭を下げ、礼を述べた。彼女は笑顔で応えた。

「うちの子と同じ毛並みだから、他人事じゃなくて」

それはどうも。

もう一度頭を下げ、電車を降りた。

悪意はないのだろうか。

彼女が言ったうちの子とは犬だ。我々との見た目の違いは、二足歩行か、四足歩行かだ。

地球に「犬」というものがあると知っていたら、転勤は断ったかもしれない。ただの好奇の目ならまだしも、連れられている犬と見比べられるのは抵抗があった。今ではだいがモラルが浸透し、見比べられることはなくなっていた。

あ、課長、おはようございます。

おはよう。

あれ、寝癖がついていますよ。

なんだと。誰かブラッシングしてくれないか

帰りに帽子を買おうと思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9119o/>

異邦人

2010年11月14日16時29分発行